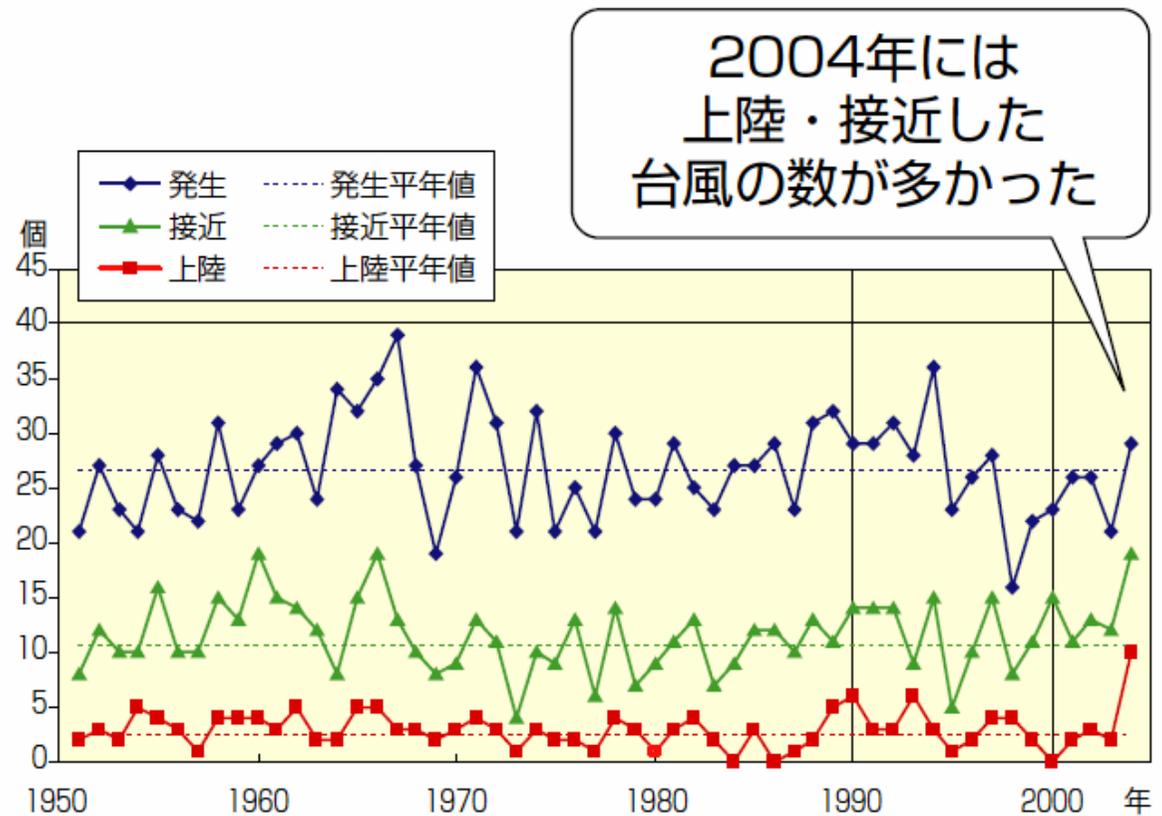


2004年は台風が10ヶ上陸

- 2004年は、過去50年以上で台風の上陸数が最も多かった。集中豪雨も頻発

- ✓ 最多記録10個の台風上陸。甚大な被害が発生(平均台風上陸数2.7個、過去最大上陸記録6個)。

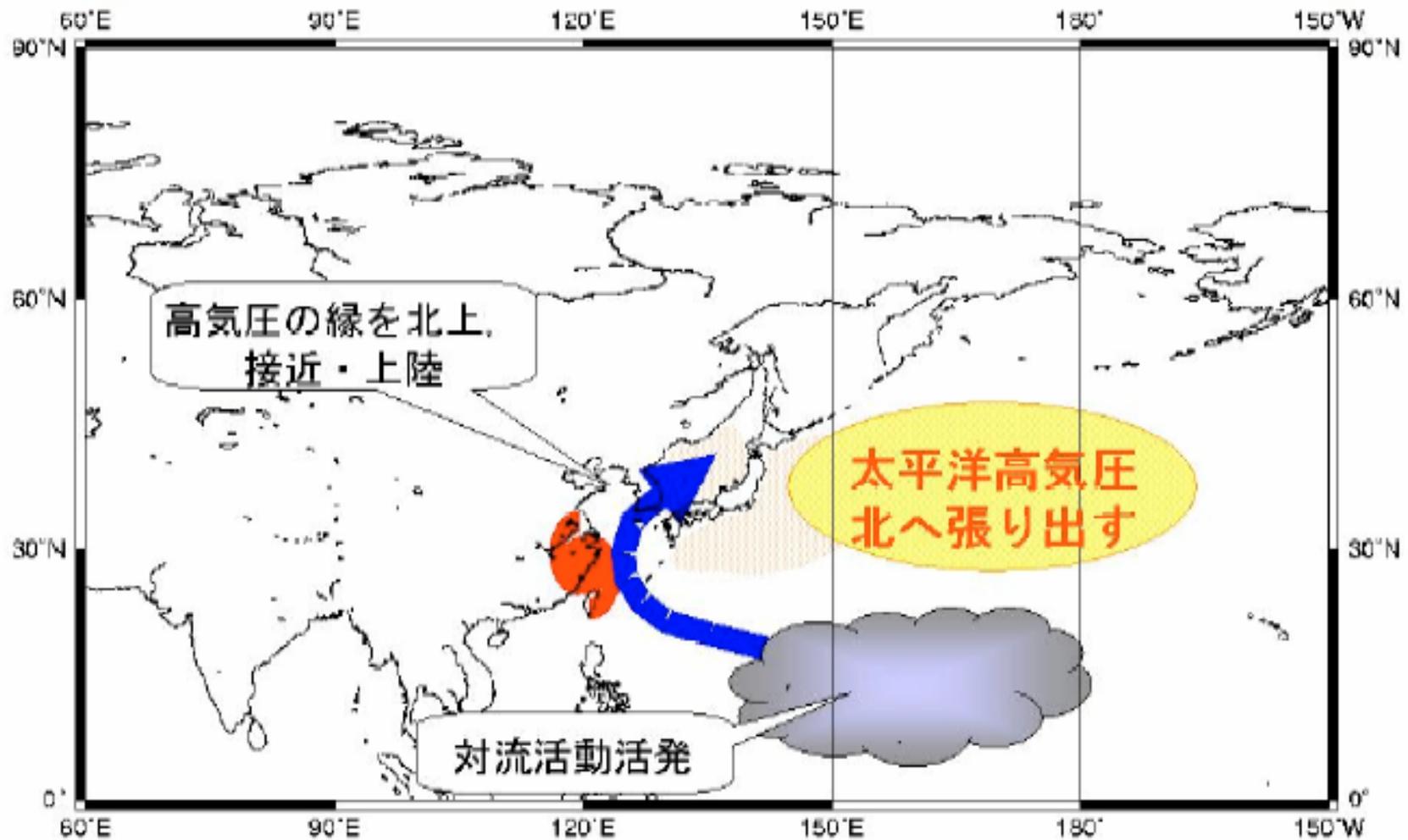


■ 台風の発生、接近、上陸個数
(文献7より)

出典) Stop the 温暖化2005

(気象庁報道発表資料より作成)

平成16年夏から秋にかけて
台風の接近・上陸相次ぐ



出典) 気象庁ホームページ

温暖化と熱帯低気圧(台風・ハリケーン)に関する 科学的知見

IPCC第三次評価報告書

- ・熱帯低気圧の発生数は、1940年代から60年代半ばにかけては多かったが、1970年代から1990年代初めには少なくなっている。1995年以降は再び増加傾向にある。約10年周期で発生頻度に変動があるが、長期傾向としての特色は認められない。
- ・気候モデルの研究から、温暖化すると発生数は減少するが、中心風力などが増加すると予測されている。

熱帯低気圧と温暖化は関係なしとする知見

ハリケーンと温暖化は関係はなく、大西洋の塩分濃度や水温が40～60年周期で変化しているため。約10年前からハリケーンの活発期に入っており、温暖化とは関係なし、あるいは関連は軽微。

・ **Chris Landsea (クリス・ランドシー、NOAA) (Bulletin of American Meteorological Society, 2005)**

台風と温暖化の関係はない。数十年周期などの自然の影響。被害が増加しているのは、人口や資産が集中したため。

熱帯低気圧が強力になっている、温暖化との関係があるとする知見

・Kevin Trenberth (ケビン・trenバース、米国大気研究センター)
(2005年6月17日、Science)

ハリケーンが発達し、強い勢力となるのに適した状況(海水温の上昇など)を、温暖化が作りだしている。カテゴリー4、5(壊滅的な被害が予想される)のハリケーンが増える。

20世紀中の海水表面温度(SST)が非線形にだが上昇している。ただSSTのみがハリケーンに影響する要因ではない。

・Kerry Emanuel (ケリー・エマニュエル、MIT)(2005年8月4日、Nature)

ハリケーンの発生から消滅までの総エネルギーを指標として解析した結果、過去30年間にハリケーンがより長寿命かつ強力になっていることがわかった。

・P.J. Webster ら(P.J. ウェブスター、2005年9月16日、Science)

過去30年間にカテゴリー4、5のハリケーンが増加した。海水温の上昇が要因の可能性。さらに検証が必要。